

# 要 望 書

平成29年1月

百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議

内閣官房長官 菅 義 偉 様

## 「百舌鳥・古市古墳群」の世界文化遺産登録の実現について

「百舌鳥・古市古墳群」は、わが国の古墳時代（3世紀中頃～6世紀後半）を代表する、王とその関係者たちが埋葬された墳墓であり、古代国家形成過程という人類史上の重要な段階に造られた巨大王墓の顕著な事例として、また古墳時代の文化の稀有な物証として顕著な普遍的価値を有しております。

これまで、地元自治体（大阪府・堺市・羽曳野市・藤井寺市）を中心に、宮内庁、文化庁とも協議を重ね、推薦書素案の作成に取り組んできたところであります。

昨年10月には国内外の専門家を招へいし、国際専門家会議を開催し、文化審議会からいただいた課題に対して議論を行い、様々なご意見をいただきました。これを踏まえ、現在、宮内庁と協議を重ねながら、文化庁の協力を得て、海外専門家にも理解しやすい推薦内容への精査を行っており、3月には提出する予定であります。

また、資産の周辺環境を保全するため、適切な範囲の緩衝地帯を設定し、昨年度から、建築物の高さや形態意匠、屋外広告物等に制限を設ける条例等が施行し、資産および周辺環境の保存管理に努めているところです。

さらに、経済界・市町村及び府民や市民による登録応援組織が設立されるなど、「百舌鳥・古市古墳群」を未来に引き継いでいこうという機運が盛り上がっております。

「百舌鳥・古市古墳群」について、平成31年の世界文化遺産登録が実現できるよう、下記のとおり要望いたします。

### 記

1. 「百舌鳥・古市古墳群」について、平成29年度にユネスコへの推薦資産として決定し、平成31年の世界文化遺産登録を実現すること。

平成29年1月6日

百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議会長

松井 一郎